

令和5年度 全国学力・学習状況調査について

(本調査は、全国悉皆調査で第3学年生徒を対象に4月に実施されたもの)

1 学力調査に関する結果の概要

【国語】

- 思考力、判断力、表現等における「B 書くこと」、記述式の問題形式において県や全国の平均を上回っており、書くことを苦手にしていない生徒が多い。
- 思考力、判断力、表現等における「C 読むこと」、記述式の問題形式において県や全国の平均を上回っており、文章を読み取る力が身に付いている生徒が多い。
- 多くの条件を理解し、全ての条件にあてはまるものを選択する問題に課題がある。

【数学】

- 領域「D データの活用」の正答率が県や全国の平均を上回っており、新学習指導要領の学習内容の定着が見られる。
- 選択式の正解率が高く、文章の正否を問われる課題に対する知識の発揮が見受けられる。
- 領域「A 数と式」に課題が見られる

【英語】

- 事実が書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択することができる。
- 領域「聞くこと」において、道案内の場面における会話を聞き、その内容に適した答えを選択する問題に対して、課題が見られる。
- 領域「書くこと」において、与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を聞かせさせる問題に対して、課題が見られる。

2 児童（生徒）質問紙に関する結果の概要

- 自分の将来に目標や夢をもっている生徒が全国平均より多い。
- 1, 2年生のときに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだと答えた生徒が全国平均より多い。
- 家庭での学習時間が0～30分の生徒が平日で10%程度、週末で30%程度いる。

3 取組についての評価

(1) 教科に関する取組

① 効果があった取組

- ・ 全校での授業研究と授業改善の推進（学年教師集団、各教科における授業研修）
- ・ ICTを活用した言語活動と教材提示

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・ 学習意欲に注目した校内主題研究
- ・ ICTの活用を含む授業研修会
- ・ 各教科主任を中心とした学力向上委員会による学力分析と対策の共有化

(2) 児童（生徒）質問紙の内容に関する取組

① 効果があった取組

- ・ 進路指導、いとしま学、起業家教育などのキャリア教育の推進

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・ 家庭学習の時間を毎月集計し、担任が個別に面談を行う。
- ・ 各種テスト結果の早期報告と学力分析に対する校内研修の充実。